

埼玉縣下自由党員等利根川畔に於て數年
 旗奪ホノ軍一動ヨリ高ノ演説ヲ為シテ景況
 別紙ニ面談縣令ヨリ申報アリ出次會ニ層
 盛大ナラシメントノ協議ヲ為シタル趣ニテ其所為
 頗ル狂妄將來治安上妨害ノ虞ナキニ非ス依テ
 次會ハ深ク注視シ時宜ニ依リ相當ノ處分致シ
 此様縣令ハ内示ニ及置テ右ノ為差事ニモ
 多ク其得志為念一廻内申也

明治六年八月三日

内務卿山田顯義



太政大臣三條實美殿

一 本年七月六日北埼玉郡本川俣村堀越寛介同郡喜右工
門新田齋藤珪次ノ兩名首唱者トナリ全郡上村君村地
内利根川土手ニ於テ自由運動ト称ヘ埼玉群馬兩縣下
ノ自由党員ヲ初メ學校教員生徒等ノ集合ヒレ者都合
二百六十余人來觀者大凡ソ三千余人ナリ其狀況ハ利
根川堤上ニ三箇ノ小屋ヲ假設シ東西ニ參集ノ人数ヲ
ニタ手ニ分チ大小數流ノ赤白旌旗ヲ翻シ其中央ヲ糧
食其他縱テ司令ノ出ソル所ト定メ河岸ニハ四艘ノ船
ヲ繫キ之レニ數百ノ球燈ヲ掲ケタリ而シテ午後一時
頃中央則チ司令所ニ於テ鐘ヲ鳴ラシ喇叭ヲ吹キ令ヲ
傳フルヤ東西ヨリ探出シ繫劍旗取ノ運動ヲナスヲ四
回ニシテ全四時過キニ至リ運動終ル其來觀者ハ一同

直ニ退散セリ夫ヨリ會館ハ四艘ノ船ニ乘込利根川中
流ニ連繫レテ絃歌踏舞頗ル盛宴ヲ張レリ

抑此日ノ舉タルヤ表面ヨリ視察スルニ擊劍ノ勝敗ニ
ヨリ交互旗旗ヲ争ヒ奪フニアリテ見物者ハ只ニ戦争
ノ演習ト評スルニ外ナラスシテ敢テ民情ニ感覺ヲ起
サシムル程ノ情况ハ無之ト思考ス

一 親睦會船中ノ景況ヲ内偵セシムルニ第一ニ募集者ノ
氏名ヲ帳簿ニ記載セリ惣員二百名ナルモ内六十名ハ
記載セズ漏レタリト云フ夫ヨリ北埼玉郡蒲勒村學校
教員新井秋之丞ヨリ提出シタル大船（紙張ニシテ小舟）ノ艦
カ我々自由ノ妨ヲナスマモノナレハ先ツ艦ヲ切取ラン
ト云ヒ悉ク艦ヲ切タル上首ヲ断チ体ヲ水中ニ投シ首
ハ船ハ船ニ梟シ自由万歳ト祝シタリ

一 齋藤珪次カ演説ナシタル處ノ概畧左ノ如シ
予ハ今回板垣君ノ帰朝ヲ賀セシカ為メ出京シタルハ諸君ノ
素ヨリ知ラレ、所ナリ君ノ外遊中經驗セラレシ「數種ノ物語リヲ
聴キ心事自カラ爽快ヲ覺ヒタリ然レ氏一々之ヲ述ヘ尽ス能ハセハ
諸君ト共ニ堅ク執テ動ク可ラサル」事アリ請フ諸君之ヲ略言セ
一 板垣君曰ク我カ日本政府ハ壓制主義ノ組織ニシテ如何
ニ自由ノ精神ヲ養ヒ幾百通ノ建言書ヲ出スモ到底採用アルノ
見ハナシ然ラハ中我々ハ壓制政府ノ下ニ屈服シテ輕々月日
ヲ看過スルノ理アルナシ然ラハ多少或ハ妨害トナル「ア」ニセセヨ
我カ覺ハ益精神ヲ凝シテ自由ノ主義ヲ擴張シ自由ノ世トナサニ
可カラス之レヲ熱望セハ宜シク擊劍柔術等ヲ嗜ミ腕力ノ養成モ
亦ナカル可ラス云々

一 堀越寛介外十五六名交々立テ演説ヲナセリ其論旨ハ

齊藤珪次カ板垣退介ノ物語ト言ヒ述ヘタル所ト大同
小異ニシテ何レモ狂暴過激ノ辯論ニテアリシト云フ
一 次會ハ煙火等ノ企モアリ秋期ト豫定シ本會ヨリ一層
盛大ニ為シトノ協議ヲナスニ召集者一同ノ賛成ヲ得ラシコトニ
一 決セリト

埼玉縣人

一 談會ニ參會セル重立タル者ノ氏名ハ左ノ如シ

堀越寛介 吉田物四郎 平野善三郎 齊藤珪次

田口与右門 小菅孝之丞 田口仙藏 新井秋之丞

岡田孝八 小沢市三郎 小沢清右郎 録田進下郎

岡田録太郎 松本伴七 藤原庄平 齊藤勝太郎

中島義三郎 縣人

高沢音次郎 山本忠三郎 福田尚義 蓮見市太郎

藤野年参 和田傳次郎

茨城縣人

三浦滝藏

一 群馬縣ヨリ六名茨城県ヨリ一名未會セシ者ハ多ク撃

剣ヲ嗜ム者ニシテ散テ自由主義ヲ首唱スル者ニアラ

スト探聞セリ

一本會ハ名ニ付會費金三拾弍ナリシカ竟想外ニ集金

アリテ雜費ヲ支弁シ尚ホ有餘ヲ生シ殊ニ未觀者ノ衆

多ナリシヲ頗ル満足シタルナランカ堀越寛介齊藤珪

次根岸貞三郎等ノ父兄モ自由主義ニ熱心ノ情況アリ

テ益奮發力ヲ增長スルノ傾向アリト云フ

右ハ管下北埼玉郡上村岩村地内境上ニ於テ自由黨員等自由

運動ト稱ヘ撃剣旗取ヲシタル狀況及ヒ親睦會ノ情況探知セシル

二前書ノ通り有之候條此段開申候也

明治十六年七月廿六日

埼玉縣令 菅田清英

内務卿 山田顕義 殿

栃木縣下自由黨員運動會ノ景況未
別帝ノ御詠懸令より申報致し
者也心得内申候也

明治十六年八月七日

内務卿 山田顕義

太政大臣 三條實美 殿

近來管内下野國下都賀郡西部即チ吹上村富張村最寄ニ
十余ヶ村人民中結合シ屢ニ運動會ヲ原野ニ開會ス其重
立タル誘導者ハ吹上村平民類由塩田奥造全新井章吾時
具會議員ニテ東京等ナリ
自由党本部幹事

運動會ノ景況最初ハ旗奪綱引等ニ過キスト近來ニ
至リテハ概ネ白襖布紺服ヲ着ケ紙張ニテ軍帽ニ模擬
シタルヲ以テ軍銃ニ擬シタル紙張銃并ニ木銃ヲ髣ヒ隊
伍ヲ組ミ石油ノ明燐光ニ横笛ヲ鳴レ以テ進退ノ符トス
隊長騎馬又アリテ號令ヲ為シ其運動練兵ノ状ト異ルナ
シ紅白ノ旌旗ヲ樹テ自由以血買百姓敗尽等ノ文字ヲ記
スルアリ其他貧民隊等アリテ乞丐ノ如キ醜装ヲ為セリ
右等ノ裝飾ヲ為シ各村ヨリ隊伍ヲ組ニテ會場ヘ進行ス

村落ヲ過クル毎ニ鯨声ヲ登スト云フ吹上村ノ如キハ常ニ五六名ハ喇叭ノ演習ヲ為スアリ獅令喇叭等ハ徵兵満期歸村ノ者傳習スト云フ

塩田新井等常ニ頑民ヲ誘導スルニ曰ク三年ヲ出ス今日ノ壓制政府ヲ倒シ吾党此レニ代リ改権ヲ握ル今日ヲトシテ知ル可シ我党改権ヲ握ラハ租税ヲ薄シ今ノ如キ安寧ノ位地ニ措ク丁固我党ノ精神ナレハ諸民モ今日コソ意ヲ決シ吾輩ノ言ニ従ヒ充分氣力ヲ養ヒ他日ノ變ヲ待ツヘシ火ス結果幸福ヲ占ムル丁明ナリ云々ト然レモ唯其愚民ヲ籠絡スル手段此ノ如クナルニ止リ未タ其ノ隠謀等ノ場合ニ至ラス

博徒ノ如キモノハ漫ニ之ヲ信シ徂々其籠絡ニ陥リ常ニ唱フル処ハ吾党敗ヲ取リ生命ヲ果ストヒ決テ惜カラス

政府ハ陸軍ヲ頼ムモ吾党之レヲ恐レス全國ノ人民反目シテ戈ヲ政府ニ向ケルトモ子弟タル兵卒ナレハ父兄ニ戈ヲ向ケル訳ナシ云々ト農事モ棄置運動會ニカムト云フ然レモ父老及着實ノ人民ハ大ニ之レヲ憂ヒ早ク其解散ヲ望ムモノ少カラス

又新井塩田等ハ初メハ演説等ヲ以テ党員募集ノ具ト為シタルカ如キモ目下ハ運動會ヲ以テ募集スルカ如シ先キニ報告セシ如ク運動會名簿ニ記スルモノ二千人アリト又積金添アリ右等ノ運動會ハ輕忽視スヘカラサル性質アルモノナラン

右ノ状況ナルヲ以テ塩田其他重立者へハ警察署ヨリ屢々説諭ヲ加ヘ又不穩ノ裝飾等ハ除本セシメ徐々驅除セントトセシモ尚止マサルヲ以テ容月廿日警部巡査ヲ監臨

セシメ嚴重ニ命令ヲ下レ苟モ軍隊ニ模擬スルヲアレハ
之ヲ制止シ解散ヲ命シ本銃等ハ一時預カル等臨機ノ所
置ヲ為スヲニ有之候爾未附和雷同者ノ内ニハ多ク此ノ
運動會ヲ忌嫌スルニ至リシ者モアリト云フ
愛知縣平民自由党員加藤平四郎ハ容月十七日縣下ニ來
リ下都賀郡吹上村同党員塩田奥造新井章吾ノ宅ニ來リ
一泊シテ歸京セシ由ナリ

一 改進黨ハ近來沈着ニシテ演說懇親運動會等ノ催ナカ
リシカ東京改進黨本部員赤羽方次郎ナル者安藤郡枋
本村改進黨員本川侯久平方ニ來遊ニ安藤郡小中村東京
改進黨本部常議員田中正造ノ幹旋ニヨリ七月廿九日
本縣々會議員
安藤郡枋本村唐沢山上ニ於テ懇親會ヲ開キ參會スル
モノ六十八名爾後自由党ノ抗擊ニ對スル演說會ヲ開

クノ目的ヲ決シ且東京本部へ月々金五十匁送付スヘ
キヲ相談ス

一 赤羽方次郎左ノ演說ヲ為シタリ
歐米各國ノ政治家ハ能ク輿論ヲ起シ政府モ亦能ク之
ヲ採用ス我國ニテモ是ヨリ輿論ヲ立テ我政府力之ヲ
採用スル様ニシテ人望ヲ得シ政府ニ早ク致シタシ云

右記載スルノ外異狀無之候此叙及御報告候也

枋木縣令藤川為親代理

明治十六年八月三日

枋木縣大書記官片山重範

警保局長勝田稔殿

内務卿と申す

初事与縣下自由黨

兼況供高道也

内務省

大正三年

大正三年

大正三年

大正三年

大正三年

大正三年

大正三年

大正三年

大正三年

由家...
...

去近...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

三重県下民情景况去月廿九日ヲ以テ及上申置候處今又別紙ノ通警言保局長ニ申報候ニ付供電覽候也

明治十六年三月十一日

内務卿山田顯義



大政大臣三條實美殿

Handwritten text in cursive style, likely a copy of the official document or a related note.